

令和8年度

鳥取県教育の重点

～各教科等の指導のポイント～

【重点目標】

自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成



R7 ふるさとキャリア教育 CM コンテスト大賞作品より

鳥取県教育委員会

目 次

○はじめに	1 ~ 2
○令和7年度各教科等の授業の実施の状況と 今後の取組に向けて	3 ~ 7
国語 社会 算数、数学	3
理科 生活 外国語活動、外国語（英語）	4
音楽 図画工作、美術 体育、保健体育	5
家庭、技術・家庭（家庭分野） 技術・家庭（技術分野） 特別の教科 道徳	6
総合的な学習の時間 特別活動	7
○令和8年度各教科等の指導のポイント	8 ~ 12
国語 社会 算数、数学	8
理科 生活 外国語活動、外国語（英語）	9
音楽 図画工作、美術 体育、保健体育	10
家庭、技術・家庭（家庭分野） 技術・家庭（技術分野） 特別の教科 道徳	11
総合的な学習の時間 特別活動 「とっとり『学びの部屋』」等二次元コード	12
○資料	13 ~ 15
◆鳥取県教育振興基本計画 ～未来を拓く教育プラン～ （令和6年度～令和10年度）	13
◆「ふるさとキャリア教育」を基軸とした人材育成	14
◆ととりの授業改革【10の視点】	14
◆鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する 指標【教諭等】	15

1 学力向上に係る取組の推進と重点目標に込めた願い

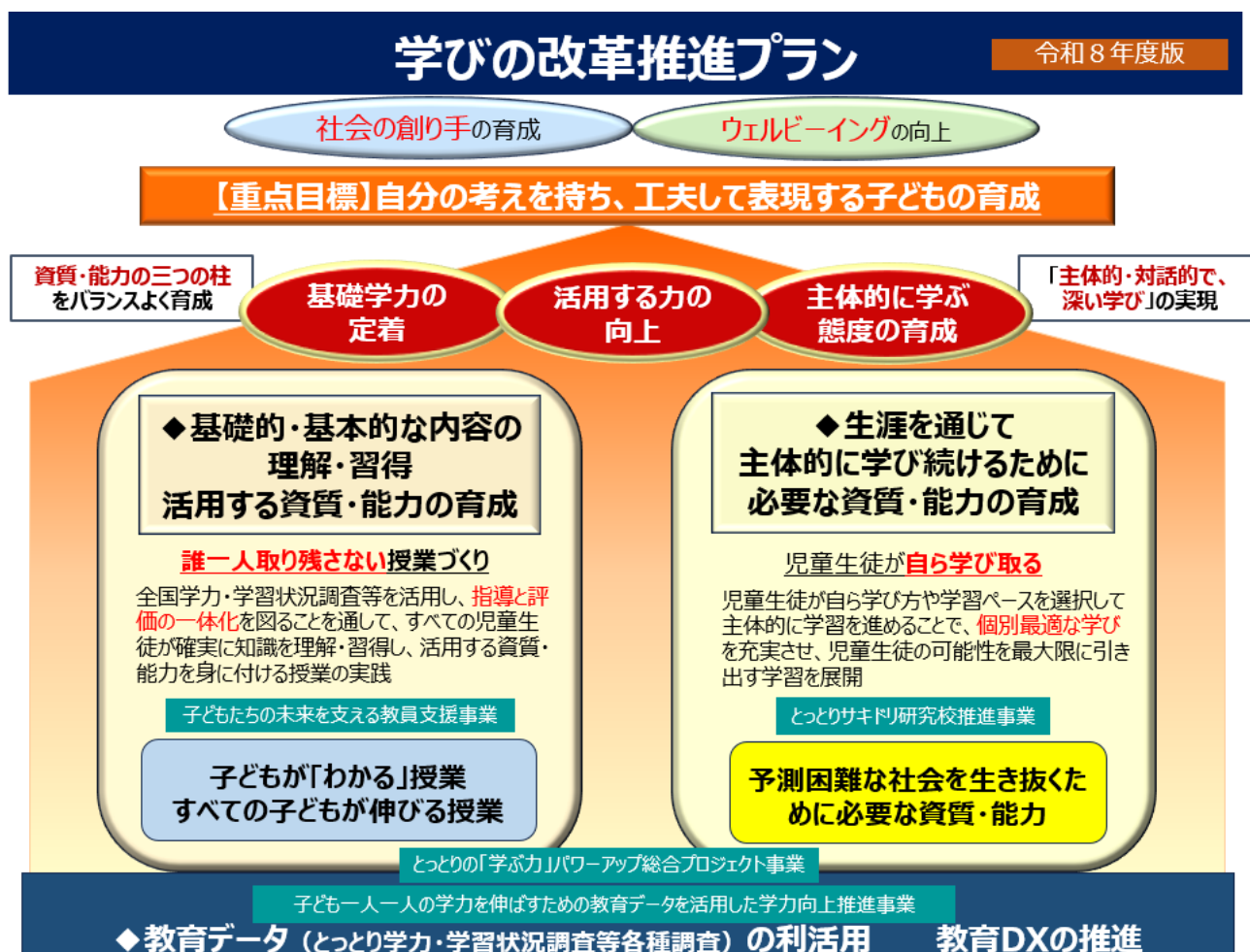
鳥取県教育委員会では、令和6年度から「鳥取県教育の重点 ～各教科等の指導のポイント～」を作成し、その重点目標を「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」として、各学校において、授業改善の取組を進めていただいているところです。

さて、令和7年度の全国学力・学習状況調査では、教科調査の平均正答率が小学校、中学校ともに全教科で全国平均を下回る結果となり、調査開始以来、全国平均との差が最も大きくなりました。また、「授業の内容はよくわかる」と回答した割合が前年度を下回り、「授業で自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する」ことについても課題が見られました。

今回、調査から見えてきた課題を、さらなる授業改善のための大切な気付きと捉え、学力面の課題を解決するとともに、学習指導要領改訂の方向性を見据えて、鳥取県の子どもたちが生涯にわたって自ら学び続けることができる資質・能力を育成するため、令和8年2月に「学びの改革推進プラン（令和8年度版）」（下図）を策定しました。このプランにおいても、重点目標を「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」としています。

本重点目標は、「思考力、判断力、表現力等」の育成や「知識及び技能」の習得、現行学習指導要領が目指している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながるものであると考えています。これまで各学校で進められてきた授業改善を確かな土台としつつ、全県が一体となって重点目標の達成に向けて、歩みを揃えて取り組むことが大切です。

今後、各学校において、この「鳥取県教育の重点」に示しているポイントをヒントにして、先生方一人一人がより一層の授業改善を進め、子どもたちの資質・能力を更に伸ばしていただきますようお願いします。



2 令和8年度「鳥取県教育の重点」の積極的な活用について

本資料では、「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」に係る授業改善について、各教科等の指導のポイントを2点ずつまとめています。活用の場面については、以下のように考えています。

- ・年度初めや単元構想する際の学習計画や学習目標、評価規準の作成に活用すること
- ・教師が指導の重点事項を理解し、日々の授業改善に向けて活用すること
- ・校内授業研究会等での授業参観の視点とすること
- ・管理職等が日々の授業を見る際の視点とすること
- ・指導主事等が学校訪問して指導助言する際の視点とすること

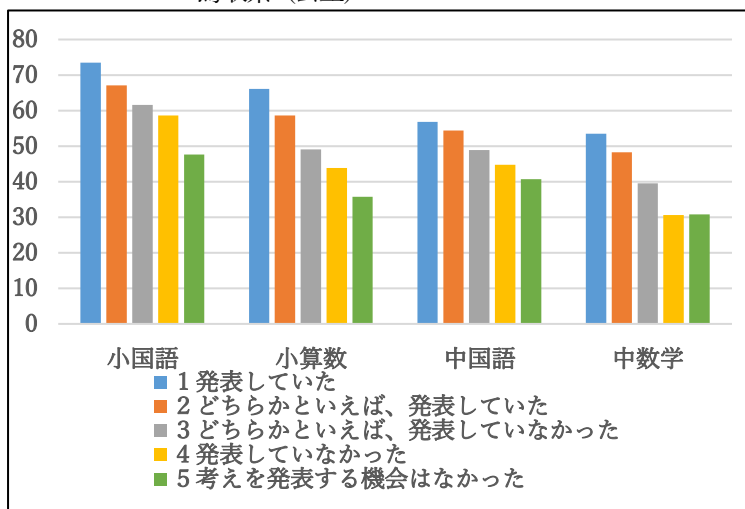
PDC Aサイクルを踏まえて、鳥取県における授業改善を推進するため、年度末には全県の指導主事で授業改善の状況についての成果と課題を協議し、次年度の各教科等の指導のポイントを作成し、発信していきます。鳥取県教育の目指す児童生徒の姿を全県で共有し、同じ方針で取り組めるようにするとともに、今後の授業づくりに活用いただきますようお願いいたします。

自分の考えを持ち、自分なりの表現ができるということは、本県が全ての教育施策の基軸としている「ふるさとキャリア教育」の目指す児童生徒像にもつながります。ふるさと鳥取に誇りと愛着を持ち、自分らしい生き方を実現するとともに、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる児童生徒の育成へ向けて取り組んでいただきますよう重ねてお願いいたします。

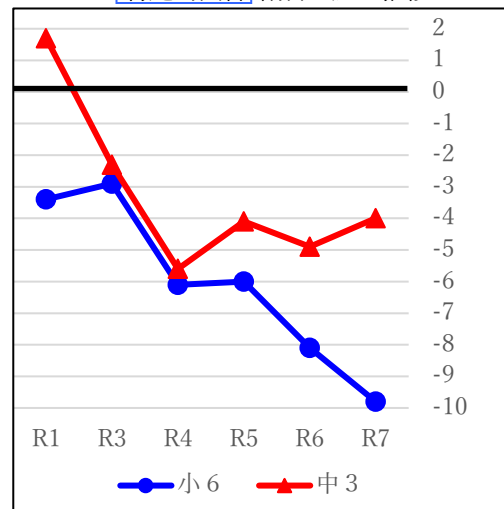
【参考資料】 令和7年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果から ※【グラフ2】はR1～R7の推移

5年生まで（中1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

【グラフ1】 児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率
鳥取県（公立）



【グラフ2】 鳥取県（公立）と全国（公立）の肯定的回答割合の差の推移



- ・【グラフ1】から、5年生まで（中1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会に工夫して発表した児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。一方、「4 発表していなかった」という児童生徒（小6児童9.5%、中3生徒10.5%）や「5 考えを発表する機会はない」と捉えている児童生徒（小6児童1.6%、中3生徒2.0%）の平均正答率は低い。
- ・鳥取県（公立）の児童生徒の肯定的回答の割合自体は、前年度と比べると、小・中ともに減少しており（小6児童-0.7ポイント、中3生徒-0.9ポイント）、【グラフ2】から全国（公立）と比べても、近年は大きく下回り、特に、小学校ではその差がより広がってきている。

【令和7年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和7年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

()内は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

国 語

指導上、努力した事項	指導事項を明確にし、指導と評価の一体化を図り、考え、表現する資質・能力を育成する授業づくり	思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元づくり
小学校	94.0% (93.2%)	79.5% (58.1%)
中学校	80.4% (80.4%)	85.7% (58.9%)

- ・指導事項を明確にした授業づくりや思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元づくりの意識は高まっている。
- ・今後は授業や単元において、育成したい資質・能力に適した言語活動を設定し、指導事項が確実に身に付くように工夫する必要がある。

社 会

指導上、努力した事項	社会的な見方・考え方を働かせて自分の考えを深める単元構成	よりよい社会の在り方について広い視野から考えようとする態度を養う学習活動の充実
小学校	61.5% (53.0%)	70.9% (62.4%)
中学校	85.7% (83.9%)	55.4% (50.0%)

- ・(小学校) 社会的な見方・考え方を働かせられるような単元構成を意識した授業づくりが行われてきている。今後は、よりよい社会の在り方について考える際、学んだ視点を根拠にして表現することができるような学習活動を仕組んでいく必要がある。
- ・(中学校) 単元構成への意識は高いが、生徒が広い視野から社会の在り方を考える学習活動の充実に課題が残る。単元の終末等に、学習したことを基に根拠を明確にして議論したり、合意形成を図ったりする場面を意図的に設定する必要がある。

算数、数学

指導上、努力した事項	身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童生徒が「わかった、できた」と実感できる授業づくり	数学的な表現を柔軟に用いて表現する力の育成
小学校	100% (96.6%)	78.6% (70.1%)
中学校	96.4% (91.1%)	75.0% (73.2%)

- ・1時間の授業の中で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にする意識や、数学的に表現する活動を大事にした授業づくりの意識は高まっている。
- ・適切な評価基準と評価方法の設定について、指導と評価の一体化に課題があるため、児童生徒の適切な見取りと手立てや適用題の充実を進めていく必要がある。

【令和7年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和7年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

()内は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

理 科

指導上、努力した事項	「問い」を見だし、他者の考えや意見を受け入れながら探究的活動を充実させる単元の構想	観察、実験等を行い、多様な形式で整理・分析し、問題解決の力を養う言語活動の充実
小学校	74.4% (64.1%)	76.9% (70.9%)
中学校	51.8% (57.1%)	83.9% (83.9%)

- ・ 探究的な単元構想を工夫し、児童生徒が自分事として考えることができる「問い」を設定する必要がある。また、自分の考えを更新し続ける協働的な学びを構築する必要がある。
- ・ 問題解決の力を養う言語活動の一層の充実を図るため、根拠に基づいた論理的な説明や自身の変容の言語化を定着させ、科学的思考力・表現力を高めるための手立てが求められる。

生 活

指導上、努力した事項	体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元構成	年間を通じて他教科と合科的・関連的な指導を図る
小学校	82.9% (70.1%)	77.8% (72.6%)

- ・ 低学年児童の未分化で一体的な学びの特性を生かし、体験活動と表現活動を繰り返すことで気付きの質を高めることや、表現方法は多様であるということが理解されつつある。
- ・ 学びの連続性を意識したスタートカリキュラムの活用、他教科等との関連、中学年以降の教育との接続を図るなど、見通しを持ちながら実践を深めていく必要がある。

外国語活動、外国語（英語）

指導上、努力した事項	「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定と、目標達成に向けた指導と評価の一体化	言語活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成
小学校	53.0% (49.6%)	98.3% (98.3%)
中学校	64.3% (62.5%)	96.4% (98.2%)

- ・ 「言語活動を通じた資質、能力の育成」の考え方が浸透している。今後は、言語活動の質や指導の在り方について、より一層の充実を図る必要がある。
- ・ 学習到達目標設定への意識が十分ではないことから、学年末や単元末に英語を使って何ができるようになるかを明確にした単元や授業づくりを推進する必要がある。

【令和7年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和7年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

()内は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

音 楽

指導上、努力した事項	音楽に対する感性を働かせながら音楽に親しみ、主体的・協働的に学ぶ授業づくりの充実	生活や社会の中の音や音楽（中学校：、音楽文化）と豊かに関わることのできる資質・能力の育成
小学校	85.5% (79.5%)	54.7% (49.6%)
中学校	87.5% (80.4%)	55.4% (60.7%)

- ・主体的・協働的に学ぶ授業づくりへの意識が昨年度より高まっているが、教科の目標である資質・能力の育成については、授業改善の意識に課題がある。子どもたちが感性を働かせて、聴き取ったことと感じ取ったこと（中：知覚感受）をもとにしながら、何を身に付けていくか明確にして授業改善していくとともに、地域行事や季節等の関連を図りながら、教科等横断的にカリキュラム編成を行う等、計画的に音楽的資質・能力を育成していく必要がある。

図画工作、美術

指導上、努力した事項	児童生徒が造形的な見方・考え方を働かせられるような指導の充実	表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の工夫
小学校	81.2% (70.9%)	66.7% (59.8%)
中学校	80.4% (73.2%)	71.4% (75.0%)

- ・児童生徒が見方や感じ方を広げたり深めたりできるような指導の工夫への意識は高まっているため、育成を目指す資質・能力をより明確にした〔共通事項〕の指導を工夫する必要がある。
- ・表現と鑑賞の指導の関連を図る際には、ねらいに沿って、表現活動と鑑賞活動とが往還するような学習過程を設定し、学習の効果が高まるよう指導計画を工夫する必要がある。

体育、保健体育

指導上、努力した事項	運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり（運動に関する領域）	健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり（保健に関する領域）
小学校	87.2% (77.8%)	59.0% (49.6%)
中学校	91.1% (87.5%)	75.0% (53.6%)

- ・「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、デジタル学習基盤の活用状況に課題がみられた。手本となる動画を個々のタブレットに一斉に配布し、児童生徒が技能のポイントを確認することに使用する等効果的な活用を行っていく必要がある。
- ・課題を発見する学習過程になっているのか、教師は課題を発見するための手立てを講じているのかを見直し、授業改善を図っていく必要がある。

【令和7年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和7年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

()内は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

家庭、技術・家庭（家庭分野）

指導上、努力した事項	問題解決的な学習過程の工夫	小・中における系統的な資質・能力の育成
小学校	82.1% (70.9%)	40.2% (46.2%)
中学校	87.5% (83.9%)	35.7% (37.5%)

- ・小・中学校いずれにおいても、児童生徒が主体的に思考する学習過程が一層意識されている。日常生活や他教科と関連させ、児童生徒が解決したいと思える課題設定等の工夫が見られる。
- ・引き続き、現行の学習指導要領解説や学習評価に関する参考資料等で、小・中学校それぞれの段階における目標や内容を確認し、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを行う必要がある。

技術・家庭（技術分野）

指導上、努力した事項	「社会の発展と技術」の学習を意識した授業づくり	言葉や図表、概念などを用いて考え、説明する活動の充実
中学校	44.6% (39.3%)	39.3% (33.9%)

- ・各内容において、具体的な社会問題（地域特産物生産者の後継者不足、地域に即した発電方法等）に視点を移し、学習した技術の最適化と社会への影響を考える授業実践が意識されてきている。今後も引き続き「社会と発展と技術」の在り方について考える授業を工夫して行うことが必要である。
- ・技術による問題解決の際に、レポートやスライドにまとめる等、成果物による表現が意識されてきている。今後は、ICTの活用等により、自分の考えを論理的に説明する活動を充実させていく必要がある。

特別の教科 道徳

指導上、努力した事項	「考え、議論する道徳」の確実な実施	明確な指導の意図をもった授業づくりとカリキュラム・マネジメントの実施
小学校	90.6% (81.2%)	54.7% (53.8%)
中学校	83.9% (85.7%)	37.5% (48.2%)

- ・児童生徒が自分の感じ方や考え方をより明確にできるよう、ねらいに迫るための発問の工夫を意識した授業づくりが行われており、今後も「考え、議論する道徳」の確実な実施に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・明確な指導の意図（道徳的価値・児童の実態・教材の活用）をもった授業づくりを行う必要がある。
- ・主題の設定と配列を工夫し、児童生徒や学校の実態に応じた重点的な指導、各教科等、体験活動等との関連的指導を行う必要がある。

【令和7年度 各教科等の授業実施の状況と今後の取組に向けて】

※表の数値は、令和7年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

()内は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示している。

総合的な学習の時間

指導上、努力した事項	全体計画、年間指導計画（単元配列表）を踏まえ、工夫して表現するための単元の指導計画と評価計画の改善	主体的かつ協働的に学ぶ「探究的な学習の過程」の実現
小学校	88.0% (81.2%)	78.6% (71.8%)
中学校	71.4% (69.6%)	69.6% (66.1%)

- ・地域住民や事業所等と連携した課題設定や体験・調査活動、取組に対する評価・改善場面の設定等により、実社会に根差し、社会参画の態度の育成につながる探究的な学習の取組が広がりつつある。
- ・「児童生徒の課題意識の醸成」や「主体性の発揮」のために、探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力の一層の具体化と、それを踏まえた探究的な学習の過程の更なる充実が求められる。

特別活動

指導上、努力した事項	よりよい合意形成のための話し合い活動の充実 【学級活動（1）】	目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実 【学級活動（2）（3）】
小学校	90.6% (84.6%) ※	74.4% (70.1%)
中学校	75.0% (39.3%) ※	78.6% (83.9%)

※令和6年度の質問項目は「思考の可視化・操作化・構造化を意識したよりよい合意形成のための話し合い活動の充実【学級活動（1）】」であったため、回答の経年変化は比較できない。

- ・【学級活動（1）】小学校では身近な社会である学級等において、板書の工夫や友達の見解のよさに目を向けることで、より多くの意見を生かせるような合意形成が図られている。
- ・中学校では、小学校での思考の可視化・操作化・構造化の経験を生かしつつ、生徒主体の話し合い活動を充実させるために、担任の適切な指導の下で、生徒の自主的・実践的な活動を促すことができている。
- ・【学級活動（2）（3）】個人の目標の実現を目指した意思決定につながる話し合い活動ができつつあり、引き続き目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実が求められる。

【令和8年度各教科等の指導のポイント】

【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

各教科等の指導のポイント ※二次元コードを読み込む際は、他の二次元コードを隠すと認識しやすくなります。

「国語」

①指導事項を明確にし、指導と評価の一体化を図り、考え、表現する資質・能力を育成する授業づくり

- 年間指導計画や学習指導要領解説を確認することで、単元で扱う指導事項を焦点化し、教科書等の教材以外の文章を読むときにも発揮できる資質・能力を育成する授業づくりを行う。
- どのような姿が見られれば単元で扱う指導事項が身に付いたと言えるのかを想定し、具体的な評価基準を明確にする。
- 学習活動中の児童生徒の状況を見取り、状況に応じた支援や指導を行うとともに、児童生徒自身が指導事項を身に付けることができたかどうかを単元の学習過程や振り返り等で確認する。

Step 1 単元で取り上げる指導事項の確認

Step 2 単元の目標と言語活動の設定

Step 3 単元の評価規準の設定

Step 4 単元の指導と評価の計画の決定

Step 5 評価の実際と手立ての想定

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小国語)



(中国語)



鳥取県学校教育のめざすもの
(国語)



②思考力、判断力、表現力等の活用を意識した単元づくり

- 身に付けた資質・能力を初読の文章で活用する機会を設定する。
例：教科書で学習した後、共通の資料を読み取り、さらに自分で選んだ本を読み取る。
- 条件に合うように表現する活動を設定する。

【条件の例】
 ①時間制限 例：○分以内
 ②字数制限 例：○字以上、○字以内
 ③内容・構成等 例：・結論を先に述べる ・キーワードを挿入する

「社会」

①社会的な見方・考え方を働かせて自分の考えを深める単元構成

- 児童生徒が見方・考え方を自ら働かせて社会的事象の意味を考えていけるように、単元など内容や時間のまとまりを見通して問い（学習課題）を設定し、1単位時間の学習を積み重ねることで解決に向かう学習過程を展開する。

単元を通した学習過程のイメージ(例)

課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題の設定 ・社会的事象を知る ・気づきや疑問を出す 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通し ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証 ・観察や調査活動を行う ・資料を活用して調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象の意味や意義、相互の関連を考察 ・多面的・多角的に考察する ・話し合う ●社会に見られる課題を把握し解決に向け構想 ・様々な意見を踏まえ解決に向け選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察・構想のまとめ ・結論をまとめる ・結論について話し合う ・レポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の振り返り ・調べ方や学び方を振り返る ・新たな問い（課題）を見いだす

②よりよい社会の在り方について広い視野から考えようとする態度を養う学習活動の充実

- 根拠を明確にして自分の意見や考え方を説明したり議論したりし、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりしながら、よりよい社会の在り方や自分たちの行動や生活の仕方などについて考える場面を取り入れる。（※波線は中学校）

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小社会)



(中社会)



鳥取県学校教育のめざすもの
(社会)



「算数、数学」

①身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童生徒が「わかった、できた」と実感できる授業づくり

- 単元を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の具体的な姿をイメージする。
- 児童生徒が主体的に取り組むことができる本時のねらいを設定し、身に付けさせたい資質・能力を児童生徒と共有する。
- 適用題の内容の精選や自力で解決する機会の設定、振り返りの充実等を図り、ねらいの達成状況を適切に把握して指導や支援に生かす。

②数学的な表現を柔軟に用いて表現する力の育成

- 数学的活動を楽しみながら自己の考えを表現することができる機会を設ける。
 - 具体物、図、数、式、表、グラフ等を相互に関連付けながら、問題解決の場面や目的に応じて活用できるようにする。
 - 問題解決の過程や考察したこと等を相手に分かりやすく説明できるようにする。
(例) 数値や条件を変えて確かさを説明する。数や式、図表等を指し示しながら説明する。かき(加え)ながら説明する。操作したり具体を示したりしながら説明する。
- ※説明3類型(事実・事柄、方法・手順、理由)のうち、何を説明させるのかを明確にする。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(算数)



(数学)



鳥取県学校教育のめざすもの
(算数、数学)



【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

各教科等の指導のポイント ※二次元コードを読み込む際は、他の二次元コードを隠すと認識しやすくなります。

「理科」

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(小理科)

①「問い」を見だし、他者の考えや意見を受け入れながら探究的活動を充実させる単元の構想

- 既習事項や自然の事物・現象の提示、日常生活における経験などを基に、「問い」を見いだすことができるような学習場面を設定する。
- 観察、実験などの結果を基に、予想や仮説と照らし合わせて考察し、他者の考えや意見を受け入れながら、自分の考えを児童生徒自らが説明できる学習場面を設定する。
- 学習の連続性を意識し、習得した知識を、次の学習や生活などに生かすことができるようにする。

②観察、実験等を行い、多様な形式で整理・分析し、問題解決の力を養う言語活動の充実

- 観察、実験の結果を多様な形式で整理・分析し、考察する学習活動や科学的な言葉・概念を用いて考えたり説明したりする学習活動を充実させるようにする。



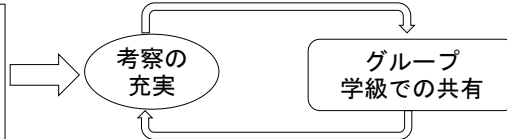
(中理科)



鳥取県学校教育のめざすもの
(理科)



- ・観察、実験データは、図・表・グラフなどを用いて適切に処理する。
- ・ICT端末（画像や動画）を活用し、対象を的確に観察・記録する。
- ・自然の事物・現象を、モデルを用いて視覚化する。等

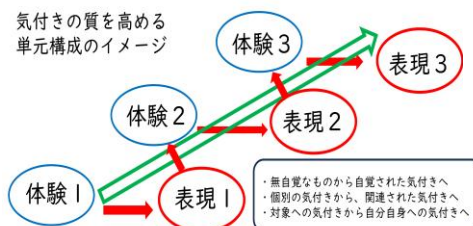


「生活」

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(生活)

①体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元構成

- 児童が、やってみたい、知りたいと自分の思いや願いをもち、具体的な活動や体験を行い、感じたり考えたりしたことを友達と交流し、伝え合うなど表現していく学習過程を大切にする。
- 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新しい気付きを得たりするようにするため、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの学習活動を重視する。



鳥取県学校教育のめざすもの
(生活)



②年間を通じて他教科と合科的・関連的な指導を図る

- 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かしたり、他教科等の学習成果を生活科の学習に生かしたりすることで、児童が身に付けた資質・能力を一層確かなものとしていけるように、教科等横断的な視点で教育課程を工夫する。

(例) 音楽科の学習に生かす
身近な自然を観察したり身の回りのものを使って遊んだりする体験が、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ることなどに発展する可能性をもっている。



「外国語活動、外国語（英語）」

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(小外国語活動・外国語)

①「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定と、目標達成に向けた指導と評価の一体化

- 学年ごとで、英語を使って何ができるようになるかを明確にした領域別の学習到達目標（「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標）及び評価規準を設定する。
- 学年末や単元末の児童生徒の姿から逆算するバックワード・デザインによる単元構成、授業構成を行う。



(中外国語)



鳥取県学校教育のめざすもの
(小外国語活動・外国語)
(中外国語)



②言語活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成

- 言語活動を行うにあたっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等を明確に設定し、相手意識をもって自分の気持ちや考えを伝え合うことができるようにする。
- 言語活動を一度きりで終わらず、言語面や内容面についての指導や、言語材料について理解や練習を行う場面を適宜設けて、再度活動に取り組みさせる等、児童生徒が使いながら英語を身に付けられる学習過程を設定する。

最初よりも、英語を使って
できることが増えた！



【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

各教科等の指導のポイント ※二次元コードを読み込む際は、他の二次元コードを隠すと認識しやすくなります。

「音楽」

①音楽に対する感性を働かせながら音楽に親しみ、生活や社会の中の音や音楽（中学校：音や音楽、音楽文化）と豊かに関わる資質・能力の育成

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、子どもたちが音楽的な見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを充実させる。
- 目指す資質・能力を明確にし、児童生徒が聴き取ったことと感じ取ったこと（中学校：知覚・感受）を支えとして、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさを見い出したりするなどの活動を設定する。

②子どもたちの資質・能力の育成に向けた計画的な音楽教育の推進

- 子どもたちが音楽科の見方・考え方を働かせて、地域教材を生かしたり他教科との関連を図ったりすることができるよう、教科等横断的な視点で授業づくりを行う。（カリキュラム・マネジメント）

小学校の取組例

「越天楽今様」が平安時代中期から鎌倉時代にかけて広がっていった理由を歴史的な面（社会科）や曲想的な面（音楽科）、七・五調の歌詞（国語科）など、様々な視点から捉え、相互関連的に考えることで、「越天楽今様」への興味関心を高められるようにカリキュラムを組む。さらに、地域に昔から伝わる歌や舞について調べたり、体験したりする活動を通して、日本古来の音楽のよさを味わう（総合的な学習の時間）。

- 〔共通事項〕を要として、各領域や分野（歌唱・器楽・音づくり（中学校：創作）・鑑賞）の関連を図りながら、子どもたちの学びの連続性や系統性などを意識し、複数の教材で題材構成するなど子どもたちの学びの過程を重視した指導計画を立て、実践する。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(小音楽)



(中音楽)



鳥取県学校教育のめざすもの
(音楽)



「図画工作、美術」

①児童生徒が造形的な見方・考え方を働かせられるような指導の工夫 ②表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実

【小学校】

- 各題材で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、表現と鑑賞を往還させ、児童が「つくり、つくりかえ、つくる」学習過程の実現を図る。
- どの活動においても、形や色などの特徴を捉えること（知識）と自分のイメージをもつこと（思考・判断・表現）の両視点（〔共通事項〕の視点）をもって児童の姿を捉える。

【中学校】

- 各題材で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、〔共通事項〕に示してある「知識」の内容（指導事項）の中で何を習得・活用させるのか、ということ具体的に意識し、生徒の実感的な理解につながるような指導を行う。
- 発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸に、それぞれの資質・能力が高められるような授業づくりを工夫し、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、内発的に主題を見いだせるようにする。

【小中共通】

- 実物を見たり実際に対象に触れたりするなどして、感覚で直接感じ取らせる学習活動を工夫するとともに、ICTを活用する場合は、題材のねらいに応じてその必要性を十分に吟味する。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(小図画工作)



(中美術)



鳥取県学校教育のめざすもの
(図画工作、美術)



「体育、保健体育」

①運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり

(運動に関する領域)

- 児童生徒がいろいろな運動を通して、その運動の特性や楽しみ方（何を学ぶのか）を理解し、楽しさに迫るための課題追究を主体的に行う学習展開（どのように学ぶのか）を意識することで、指導の改善を図る。
- 単元を通して「する・みる・支える・知る」の多様な関わりで運動に親しむことができるように、指導の改善を図る。

②健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり

(保健に関する領域)

- 単元や本時の目標を踏まえた「課題発見」「課題解決」「表現」などの活動を適切に取り入れることができるよう指導の改善を図る。
- 健康課題が運動や日常生活と関連性があることが理解できるよう、運動領域（体育分野）や他教科等と関連を図った指導を行う。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)」
(小体育)



(中保健体育)



鳥取県学校教育のめざすもの
(体育、保健体育)



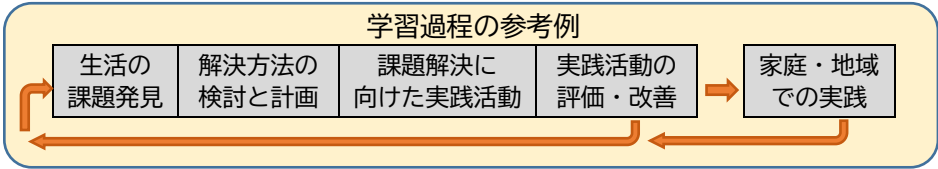
【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

各教科等の指導のポイント ※二次元コードを読み込む際は、他の二次元コードを隠すと認識しやすくなります。

「家庭、技術・家庭（家庭分野）」

①問題解決的な学習過程の工夫

- 児童生徒が自分の生活に目を向けて、問題点を見だし、話し合う場面を設け、児童生徒が解決したいと思える課題の設定につなげる。
- 習得した「知識及び技能」を活用し、児童生徒が課題の解決に向けて、計画・実践し、実践について評価・改善をする過程で、根拠や理由を明確にして自分の考えを伝え合う場面を設ける。



②小・中学校における系統的な資質・能力の育成

- 現行の学習指導要領解説等で、小・中学校それぞれの段階における目標や内容のつながりを意識し、小・中学校5年間を見通した題材の配列を工夫する。
- 学校や地域の実態、児童生徒の生活における興味・関心、学習経験等を踏まえた実践的・体験的な学習活動を工夫し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせられるようにする。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小家庭)

(中家庭分野)

鳥取県学校教育のめざすもの
(小家庭、中技術・家庭)

「技術・家庭（技術分野）」

①「社会の発展と技術」の学習を意識した授業づくり

- 技術分野では、技術の発達を主体的に支える力や技術革新を牽引する力の素地となる、技術の評価、選択、管理・運用、改良、応用することによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することをねらいとしている。このねらいを達成するために、以下のような学習過程のイメージを基に題材計画を立てる。

【各内容を構成する三要素を位置付けた題材の流れ】

生活や社会を支える技術	技術による問題の解決	社会の発展と技術
これまで開発された生活や社会で利用されてきた技術について、その仕組みと関係する科学的な原理・法則を理解するとともに、それらに係る技能を習得する。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して具体化したり、自らの問題解決を振り返ったりするといった技術による問題解決を経験する。	この経験を基に今後の社会の発展と技術の在り方について考える。中学生なりに技術と社会の関わりを考える。

②言葉や図表、概念などを用いて考え、説明する活動の充実

- 生活や社会における技術に関わる課題を解決するために、言葉だけでなく、設計図等の図表やものづくりに関する概念などを用いて考えたり説明したりする。
- 情報通信ネットワーク等の特性を生かし、考えを伝え合う活動を充実させる。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(中技術分野)

鳥取県学校教育のめざすもの
(小家庭、中技術・家庭)

「特別の教科 道徳」

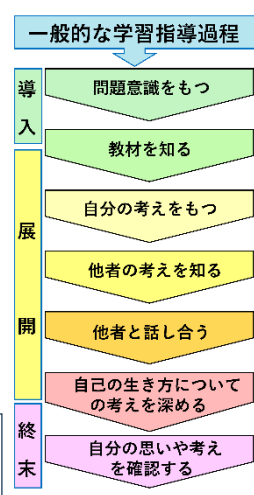
①「考え、議論する道徳」の確実な実施

- 児童生徒が自分の考え、感じ方をより明確にし、深い学びへとつながっていくように、主体的に自分との関わりで考える場面や他者の多様な考え、感じ方と出会い、交流する場面を設定する。
- 「道徳的価値」「児童生徒の実態」「教材の活用」を踏まえた、明確な指導の意図をもった授業づくりを行う。
- 自己の(中学校：人間としての)生き方についての考えを深める時間を確保する。

②道徳教育の要となる道徳科の授業の推進・充実

- 主題の設定と配列を工夫し、児童生徒や学校の実態に応じた重点的な指導、他の教育活動及び地域社会の行事等と関連させる。

(例) ・地域の人材や教材等を活用した授業の実施
 ・体験活動等と関連した主題配列の工夫や授業の実施
 ・重点的に指導しようとする内容項目(重点内容項目)の指導時間数を増やした指導 等



「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小道徳)

(中道徳)

鳥取県学校教育のめざすもの
(特別の教科 道徳)

【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

各教科等の指導のポイント ※二次元コードを読み込む際は、他の二次元コードを隠すと認識しやすくなります。

「総合的な学習の時間」

① 全体計画、年間指導計画（単元配列表）を踏まえ、工夫して表現するための単元の指導計画と評価計画の改善

- 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確にし、これを踏まえて「児童生徒の興味・関心」「教師の意図」「教材の特性」の3つの視点から、中心となる活動を思い描き、教科等横断的な視点で単元を構想する。
- 単元計画を具体的に書き表しながら単元の評価規準を設定し、評価場面や評価方法を位置付けるとともに、資質・能力の育成の観点から適宜改善を図る。

②主体的かつ協働的に学ぶ「探究的な学習の過程」の実現

- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルによる探究の過程のイメージに加え、探究の高度化や自律的な探究の視点を持ち、質の高い探究的な学びにつなげる。
- 多様な情報を活用し、異なる視点から考え、力を合わせたり交流したりしながら主体的かつ協働的に学び、発信・評価・改善する場面を設定する。

今、求められる力を高める総合的な学習(探究)の時間の展開(文部科学省)



【小学校編】 【中学校編】 【高等学校編】

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小総合)



(中総合)



鳥取県学校教育のめざすもの
(総合的な学習の時間)



「特別活動」

①よりよい合意形成のための話し合い活動の充実 学級活動（1）

- 小学校では板書を可視化・操作化・構造化することで思考の流れを分かりやすくし、中学校ではその積み重ねや経験を生かしつつ、生徒主体の話し合い活動を充実させるために活動の内容や方法を明確にし、生徒が意見を発表しやすいように指導を工夫する。
- 学級生活向上への参画意識を高め、児童生徒が主体的に自分の意思を持つことができるよう、「自分自身に何ができるのか、何を行うべきか」という視点を与え、考えさせるようにする。

②目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実

学級活動（2）（3）

- 相手の意見を聞き、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして、より自分に合った解決方法を自分で決められるよう話し合い活動の過程を工夫する。
- 気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、事後指導においても、それを基に、教師と対話をしたり、児童同士、生徒同士の話し合いを行ったりして、自分のよさ、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解が深められるようにする。

「とっとり『学びの部屋』
(Google サイト)
(小特別活動)



(中特別活動)



鳥取県学校教育のめざすもの
(特別活動)



「とっとり『学びの部屋』」等 二次元コード

鳥取県教育委員会 Google アカウントで
ログインが必要

とっとり「学びの部屋」
トップページ



鳥取県教育センター
教職員研修「研修動画」



鳥取県教育委員会
小中学校課ホームページ



「ふるさとキャリア教育」を基軸とした人材育成

鳥取県における「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材



主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

みんなで創ろう！ とっとりの学び



鳥取県の子どもたちが、さらに伸びていくための

とっとりの 授業改革【10の視点】

知的な好奇心 の喚起

① 魅力的な課題・教材の提示

- ・自ら問いを見出し、調べてみたい、みんなで考えてみたい課題や教材を提示する
- ・学習への見通しを持たせる

② 体験的な学習の充実

- ・これまで学んだこととのつながりを意識させる
- ・地域の人・もの・ことなど日常生活とのつながりを意識させる
- ・具体物や視聴覚教材を使用する
- ・実験や作業を取り入れる

③ 資料の活用

- ・問題解決に必要な資料を使って調べたり、考えたりする学習を設定する
- ・考えの形成のために情報を精査させる

④ 思考の整理

- ・調べたことやわかったことをノートに書かせる
- ・問題の解き方や考え方をノートに書かせる

⑤ 説明・発表の機会の充実

- ・考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動を設定する

⑥ 学び合う活動の充実

- ・ねらいをはっきりさせ、新しい考えを、みんなで生み出す活動を設定する
- ・考えを広げたり深めたりする活動を設定する
- ・意見交換や議論の場を設定する

指導と評価の一体化

⑦ 学習評価の推進

- ・一人一人の学習状況や実現状況を把握する
- ・個に応じた手立てや支援を行う

次につながる 振り返り

⑧ 学習を振り返る活動の設定

- ・「振り返り」の時間を設定し、達成感・成就感を味わわせる
- ・次の学習の課題やポイントがつかめるよう工夫する

⑨ 家庭学習と連動した学びの定着

- ・学校で学んだことが家庭での復習や予習および自主的な学習につながるような支援に努める

⑩ 落ち着いたのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）

鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標【教諭等】

令和6年4月1日 鳥取県教育委員会

職		教諭等・主幹教諭・教頭・副校長				
ステージ	キャリア スタート期 (教員養成 完成時・ 採用時)	育成期(第1ステージ) (1~5年目)	向上期(第2ステージ) (6~10年目)	充実期(第3ステージ) (11年目以降)		
指針における5つの柱 観点 キーワード		教員としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。	第1ステージの経験をもとに、学習指導や学級経営の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。	第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性をよりいっそう高め、広い視点から学校運営に積極的に参画するとともに、指導的立場としての力量及び管理の立場としての力量(マネジメント能力)を高める。		
				充実期前期 (11~15年目)	充実期後期 (16年目以降)	
教職に必要な素養 に主として関するもの						
素養	豊かな人間性、創造力、寛容性、人権意識	よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めることができる。				
	前向きな姿勢、向上心、適応力	学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる。				
	教育的愛情、児童生徒理解、判断力	児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる。				
	専門的知識・技能、指導力、判断力	教科等の専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる。				
	社会性、協調性、コミュニケーション力	学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域等と連携・協働を図ることができる。				
学校運営・教職員連携	使命感、責任感、倫理観	教育公務員としての倫理観及び法令遵守の精神に基づき、責任ある言動をとることができる。				
	学校安全への対応	・危機管理 ・学校教育の社会的・制度的・法的・経営的理解に関する基礎理論・知識を習得している。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、学年や学校全体を見渡す視点に立って、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。	・学校全体の視点に立って、危機の未然防止策や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、教職員に指示したりなどの対応を行っている。
	家庭・地域とつながる力	・学校、家庭、地域との連携・協働	・家庭・地域と連携・協働し、児童生徒を共に育てようとする関係を築いている。	・家庭・地域・関係機関等と連携・協働し、組織的な対応をしながら児童生徒の指導を推進している。	・家庭・地域・関係機関等との連携・協働を通じて、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。	・家庭・地域・関係機関等との連携・協働を通じて、保護者や地域等の協力を得ながら学校課題の解決に向けた取組を推進する役割として率先して行動している。
	組織として連携・協働する力(同僚・関係機関、異職種)	・目標 ・業務改善 ・ICT等による業務の効率化 ・専務 ・外部 ・チームマネジメント ・協働的教職員集団づくり	・集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。	・管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。	・同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異職種との連携を適切に行っている。	・学校課題の解決に向けて、関係機関・異職種との連携を計画的かつ積極的に進め、組織力を向上させている。
		・働き方改革の目的を理解し、ICTの効果的な活用等による業務の効率化を進めている。 ・各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。				
学習指導 に主として関するもの						
学習指導(授業力)	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	・年間指導計画 ・単元構想 ・学習指導案	・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の年間指導計画を作成するとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた単元構想や教材づくりに取り組んでいる。	・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、学年や教科の系統性を踏まえた年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、児童生徒の実態や学校、地域の特色を生かした単元構想や教材開発に取り組み、専門性の向上を図っている。	・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、教科横断的な視点を持って校内の教育課程づくりに携わるとともに、現状分析をもとに学校や地域の特色を生かした単元構想や教材開発を行い、校内研究会等で改善案を提案している。	・校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、学校の特色化・魅力化づくりに積極的に関与している。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・学習集団 ・指導計画 ・指導法工夫 ・授業改善 ・主体的、対話的で深い学び	・学習指導法に関する基礎理論・知識を習得している。	・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。	・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践することで、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っている。	・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、教科横断的な視点を持って校内における授業改革の推進を行っている。
生徒指導 に主として関するもの						
児童生徒理解・指導	児童生徒の理解と学級経営	・児童生徒との関わり ・集団づくり	・学習集団形成に関する基礎理論・知識を習得している。	・学級経営の具体的な方策を立案し、実行している。	・学級経営において、児童生徒の個別理解を図るとともに、学級集団の状況を把握している。	・学級経営目標に対する現状を的確に分析し、改善に向けた具体的な方策を提案している。
	教育相談、生徒指導及びいじめ・不登校対策	・個への対応 ・コミュニケーション能力	・生徒指導、教育相談に関する基礎理論・知識を習得している。	・教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。	・学年全体の児童生徒一人一人の特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。	・学校全体の児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導・支援を組織的に継続して行っている。
	キャリア教育(生き方・進路指導)	・生き方指導	・キャリア教育(生き方・進路指導)の重要性を認識している。	・キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を活用し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。	・児童生徒の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。	・児童生徒の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。
特別な配慮や支援を必要とする子供への対応 に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとして位置づけ						
学習指導	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、支援に必要な基礎的知識を習得している。	・児童生徒の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	・保護者や関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成・活用や、「個別の指導計画」の作成・活用や、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	・保護者や関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成・活用や、「個別の指導計画」の作成・活用や、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、児童生徒の学習の改善を図るため、教育データを効果的に活用している。
ICTや情報・教育データの利活用 に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段として位置づけ						
学習指導	ICTや情報・教育データの利活用	・ICTの授業・校務等への活用 ・情報・教育データの活用	・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に積極的に活用している。	・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。	・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。	・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。

※ 必要に応じて、「児童生徒」は「幼児児童生徒」と読み替える。